

「森永製菓グループ 統合報告書 2023」の訂正について (2023年10月10日)

記載内容に一部誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

訂正箇所には下線を付しています。

訂正前

<48 ページ>

▶ 取り組み実績と今後に向けて

■ 取り組み実績

2021～2022年度については、下記取り組みを実行しました。

目的	取り組み	成果
● 調達管理表の更新工数削減	調達部門における原料調達管理表の更新業務をRPA ^{*1} で効率化	RPA導入により、処理時間(約500時間/年)と人的ミスの削減を実現
● 経費処理の入力負荷削減 ● 経費承認業務の工数削減	紙で処理していた支払業務のデジタル化によるプロセス変革	「Concur Invoice ^{*2} 」と「Remota ^{*3} 」の連携により、経費処理業務をデジタル化し、入力・承認業務の省力化(約9,400時間/年)を実現
● 生産機能の構造改革(安全・安心の確保、安定稼働、業務効率向上)	スマートファクトリー化 ^{*4} 開始 高崎森永(株)、三島工場へ導入	IoTによる工場の稼働状況の可視化で、問題の早期発見や、遠隔での作業進捗把握を実現
● 経理部門の業務変革	経理部門における各種SaaS ^{*5} の導入	一部経理業務の可視化・標準化および、グループ全体の会計処理の実態把握を実現

※1 ロボティックプロセスオートメーション。コンピューター上で行われる業務プロセスや作業を人に代わり自動化する技術

※2 請求書の支払依頼や承認等の業務プロセスを自動化する技術

※3 AIにより請求書の内容を自動で読み取りテキスト化する技術

※4 IoT・AI技術等を利用して、技術と製造設備のデジタルデータを融合し、安定稼働・生産効率を向上させる取り組み

※5 クラウド上にあるソフトウェアをネットワーク経由で利用できるサービス

訂正後

<48 ページ>

▶ 取り組み実績と今後に向けて

■ 取り組み実績

2021～2022年度については、下記取り組みを実行しました。

目的	取り組み	成果
● 調達管理表の更新工数削減	調達部門における原料調達管理表の更新業務をRPA ^{*1} で効率化	RPA導入により、処理時間(約500時間/年)と人的ミスの削減を実現
● 経費処理の入力負荷削減 ● 経費承認業務の工数削減	紙で処理していた支払業務のデジタル化によるプロセス変革	「Concur Invoice ^{*2} 」と「Remota ^{*3} 」の連携により、経費処理業務をデジタル化し、入力・承認業務の省力化(約6,300時間/年)を実現
● 生産機能の構造改革(安全・安心の確保、安定稼働、業務効率向上)	スマートファクトリー化 ^{*4} 開始 高崎森永(株)、三島工場へ導入	IoTによる工場の稼働状況の可視化で、問題の早期発見や、遠隔での作業進捗把握を実現
● 経理部門の業務変革	経理部門における各種SaaS ^{*5} の導入	一部経理業務の可視化・標準化および、グループ全体の会計処理の実態把握を実現

※1 ロボティックプロセスオートメーション。コンピューター上で行われる業務プロセスや作業を人に代わり自動化する技術

※2 請求書の支払依頼や承認等の業務プロセスを自動化する技術

※3 AIにより請求書の内容を自動で読み取りテキスト化する技術

※4 IoT・AI技術等を利用して、技術と製造設備のデジタルデータを融合し、安定稼働・生産効率を向上させる取り組み

※5 クラウド上にあるソフトウェアをネットワーク経由で利用できるサービス

以上